

(別添2)

自己評価及び外部評価結果

作成日

令和 6 年 10 月 11 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2790300194		
法人名	社会福祉法人いわき会		
事業所名	グループホーム東神田の里		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府寝屋川市東神田町19-1		
自己評価作成日	令和 6 年 9 月 30 日	評価結果市町村受理日	令和 7年 2月 5日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エイジコンサーン・ジャパン
所在地	大阪市住之江区南港北2-1-10 ATC ITM棟9階
訪問調査日	令和 6 年 11 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“入居者様各々の思いで気付いたことを、記録して職員間で共有することにより、入居者様の思いに添えるように日々支援を行っています。
出来る限り入居者様の能力が発揮できるように役割づくりを行うことで入居者様自身が自分の力、自分の考えで行動して頂けるように努めています。入居者様の日常生活リズムを大切に、四季を感じながら生活をして頂くようにサポートさせて頂いています。また、地域の皆様と交流させて頂くことで地域に根差したグループホームを目指します。また、感染予防を徹底して施設内で感染が起こった場合でも、まん延することが無いように日々努力をしています。□
□
□

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人いわき会が運営している事業所で、敷地内には、同一法人のグループホーム、特養、デイサービスがあり、地域に密着した介護サービスを提供されている。特に同一法人のグループホームと連携し、運営や管理の効率化、情報の共有化を図り、職員はケアに専念できるようになっている。
事業所は閑静な住宅地に立地しており、地域の協力を得ながら、利用者が気軽に散歩等の外出を楽しむことができる環境である。
また、同一法人の施設や地域と連携した災害対策の整備、地域交流に積極的に取り組んでいる。
入所時だけでなく入所後のケアに関しては、利用者と家族の希望に寄り添い、安心した生活ができるよう職員で情報共有しながら支援している。

ホーム名:グループホーム東神田の里 あかしあ通り(1階)				
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価
			実施状況	実施状況
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内に理念を掲げ職員が共有しながら実践に繋げている。	玄関に掲げているいわき会の理念に基づき、ユニットごとに話し合い、毎月目標を決定している。そしてその目標に基づいたケアを、日々心掛けている。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や老人会と交流を持ち、地域の行事に利用者様と共に積極的に参加している。買い物、散歩等利用者様と一緒に地域を利用して必ず挨拶をして地域住民とのかかわりを持つようにしている。	利用者と地域との交流は控えている現状ではあるが、地域との情報共有に努めたり、事業所スタッフが清掃活動に参加したりしている。事業所が自治会に加入し、役員も運営推進会議に参加いただいている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会に地域の役員の方々に参加していただいている。ご質問等をいただき認知症の方の理解を深めている。	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的に運営推進会議を実施している。会議では施設の利用状況、行事報告、地域行事への参加、施設への意見やアドバイスを聞かせていただきサービスの向上に活かしている。	自治会役員、地域包括支援センター職員が出席している。以前は利用者や家族も参加していたが、現在は参加が難しい状態である。議事録は適切に整えられ、事業所内で共有されている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村担当者には現場の実情を積極的に伝える事は継続して行っている。	生活保護を受給している利用者や受入れ困難な利用者、措置入所について、市と相談体制を構築し、可能な限り受け入れるように努めている。市とは適切な情報連携が取れている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	研修やマニュアル等で何が拘束なのかスタッフ間で共有して知識を深め拘束のないケアを目標としている。やむを得ず身体拘束を行う場合、家族様に十分説明、ご理解いただき同意書をいただいている。また、毎月のユニット会議でカンファレンスを行い、身体拘束を無くせるか話し合うようにしている。現在一ヶ月に一度委員会を開き、学んだことをスタッフ間で共有している。	身体拘束を含む虐待について研修を年2回行っている。家族から身体拘束についての要望があった場合においても、身体拘束しないケアについて説明し、理解を得ており、事業所開設以来拘束はない。毎月、法人内の委員会で身体拘束に関しての会議も実施されている。3ヶ月に1度の実施が義務付けられている身体拘束検討委員会の議事録も職員と共有し、全員が同じ意識を持つように心がけている。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット内では、更衣・入浴・排泄介助時に利用者様の体の観察を行っている。職員は言葉使いに注意を払うと共に利用者様への配慮、気づきも大切にしている。職員には研修参加をしいており、何が虐待になるのか知識を深め話し合い防止に努めている。職員のメンタル面も把握できるように気をつけている。現在一ヶ月に一度委員会を開き、学んだことをスタッフ間で共有している。	/

議事録と次回の開催予定を利用者家族宛の請求書に同封し、運営に関する認識や会議参加の意欲付けを勧めてみてはどうか。

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修に参加し、参加していない職員に資料の共有や報告で知識を支援している。入居者の成年後見人の方と連絡を取りながら不明な点はその都度確認する事で制度への理解を深め知識を得る様に努めている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結時や改定等があった場合は、利用者様やご家族様に十分な説明をおこない、理解し納得されるまで説明し、契約後でもわからない点がある場合は随時説明を行っている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時には家族様が管理者やケアマネージャーが気軽に意見や要望を話せたり、一緒に考える、信頼関係を築ける環境を作っている。職員は利用者様、家族様の要望を申し送ノート等に記入し早期解決への対応を図っている。また、運営推進委員会においても利用者様、家族様に参加して頂き外部者に表せる機会を設けている。</p>	<p>まだ面会には制限を設けている状況ではあるが、家族と話をする機会を積極的に設け、要望や意見を積極的に取り入れてケアに反映させるよう心掛けている。</p>	
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>ユニット会議にて職員間で話し合いを行いその内容をリーダー会議に提案し結果を反映出来る様に取り組んでいる。内容によっては早急に管理者やケアマネージャーに報告、相談しすぐに対応できるものは実施している。</p>	<p>管理者は、ユニットリーダーとの密な連携を心がけている。職員1人1人ともヒアリングを行うよう心掛けている。職員から管理者へ相談しやすい関係を構築できるよう努力している。</p>	<p>職員の資質向上、意識改革の必要性を感じている点について、研修も効果的であるが、まずはヒアリングの頻度を増やして、1人1人の個性や考えと向き合う体制作りから始めてはどうか。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>資格取得を奨励する事により、職員各自が向上心を持って働けるよう勤めている。休憩場所、時間にも配慮し施設内でリラックスして休憩が出来るよう勤めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>向上心を持って働けるように、法人内の年間研修計画での研修は、出来る限り出席している。また、外部研修への参加も積極的におこなっている。参加できなかった職員にも認識できるように資料の共有伝達を行い知識の向上に努めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>年間研修計画を通して勉強会を実施し、同業者と交流を深める機会をつくり、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居希望者には必ず初回面談を行っている。面談時には自宅及び病院に訪問し本人の生活環境、気持ち、要望や不安な事を聞かせて頂き説明し安心して頂いている。御本人が安心出来ない場合は御本人様とご家族様に説明して安心して頂ける様に努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居相談時には不安な事柄を聞き取る様にしている。不安が残っている時は訪問または来所して頂き説明を行って安心して頂いている。ご要望の中には利用者様の状態に応じて変更が生じる場合もあるためその場合はその都度報告して意見伺っている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービスの利用を開始する段階で、本人様と家族様が必要としている支援を聞き取り、見極めサービスに対応している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者様の得意な事、関心のあることを伺い出来る限り好きな事をして頂いている。手作り昼食やおやつの際には各自ご家庭の味付けや料理方法を伺い利用者様と話し合いメニューを決めている。お手伝いいただける事は手伝っていただき、職員はしっかりと感謝を表し良い関係を築いたている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員は、家族様の面会時には、利用者様の様子をお話すると共に家族様の様子を伺っている。また、病院等に付き添って頂く事、施設の行事に参加いただくことでご本人とご家族とが話し出来きて家族との関係性を深めている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>新型コロナウイルス予防の為、現在週に一回、ご家族3名以下、時間を15分以内、不織布マスクを着用し面会に来て頂いている。</p>	<p>ご家族と外出できる機会を大切にしていただけのように支援している。</p> <p>フェースシートだけでなく、普段のケアの中で知り得た利用者の好みや趣味などをケアに取り入れるよう努めている。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>お話しが好きな方、または同じレクリエーションが得意な方だけが固まるのではなく、間に職員も入り孤立しないように気をつけている。座る席にも配置したり、孤立されている様子が見られた場合、職員が隣に座り傾聴や声掛けを行い、利用者同士の関わりがもてる支援に努めている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所された入居者様に対しては他事業所への情報提供を行っている。またご家族様より相談を受けた場合はお話しを聞かせて頂き支援に努めている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>普段の生活の中で思いを伺える環境作りを気をつけている、利用者様との介助時二人だけの会話ができる時間を作り、普段聞けない要望、思いを聞いてスタッフ間で共有し、申し送り本人の希望に添える様に支援している。</p>	<p>普段のケアの中で利用者の思いを把握するよう努め、把握が困難な場合は家族から聞き取りを行っている。 スタッフが気付いたり気になったことを「気付きノート」に記録し、スタッフ間での共有や通院時の情報提供に活用している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>入居の時点で出来るだけ詳細に何うように努めている。また出来る限りご家族とコミュニケーションを図り生活環境を整える様にしている。関係者の来所の際にはお話を聞かせて頂き情報の収集を行っている。知りえた情報は申し送りノート、口答にて共有出来る様に努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々の利用者様の暮らしの観察、表情や態度や生活記録を参考に生活リズムを把握している。申し送りノート等で内容を確認して心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>日々利用者様に状態の変化が有る場合は本人様、家族様の意見、意向を伺い尊重しながらまた、訪問看護、担当医の意見を聞きカンファレンスを行うにしている。月に一回ユニット会議時に全体のカンファレンスを行っている。</p>	<p>介護スタッフが利用者や家族から知り得た情報は、ユニットノートに記入して、ケアマネジャーとも情報共有を図り、ケアプランに反映させるよう努めている。 ケアプランは、利用者・家族の思いや状態がよく反映されている。</p>	<p>今「利用者ができること」を維持・改善していくための指標になるように、誰のケアプランか一目でわかるように、具体的に言語化し、プランに記載いただきたい。それが利用者を安心して任せられるという家族の思いにもつながると思われる。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録、バイタル表、申し送りノートを利用し適時に利用者様の情報を記録して職員間で共有している。ユニット会議やカンファレンスに活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>緊急時の受診だけではなく、定期受診も本人様の状況、家族様の介護力から対応が難しい場合送迎、付き添いを行っている。本人様、家族様からの希望がある場合で職員での対応が難しい場合は介護保険外サービスが利用できるよう家族様、成年後見人に確認のうえ利用していただけるよう取り組みを行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティアを活用できるように、社会福祉協議会への申し込みを行い、入居者が安全で豊かな楽しい暮らしができるように支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居相談時にご本人、ご家族にかかりつけ医を確認させて頂いて。かかりつけ医を中心として連絡を取りながら関係を築き、ご本人に合った適切な医療が受けられるよう支援している。希望があれば職員の日程調整を行い受診に付き添っている。</p>	<p>内科・歯科・精神科は、事業所の協力医による定期的な受診に理解をいただき、迅速かつ適切な対応を心がけている。 一方で、かかりつけ医の希望がある場合は、家族の協力を得ながらその意向を優先している。</p>	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>訪問看護サービスを利用している。週一度の訪問時に日常の中で気づきや情報を伝え相談をしている。緊急時には24時間連絡が出来る体制を取っている</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>病院への入退院時には、必ず職員が付き添いを行い病院へ情報を伝達する様にしている。入院後は介護サマリーを直ぐ提出させて頂いている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化、終末期については、家族の意向をできる限り添えるように努めている。家族の意思表示をもとに、終末期に向けたサービス内容の変更を行い、その都度説明しご家族の意見、意向を伺い方針の決定を行い支援させて頂く様に取り組んでる。</p>	<p>入所の際に看取りについて書面で聞き取りを行っているが、状態が落ちてきた段階で、意向が変わっていないか再度確認をしている。</p> <p>日々の食事量や顔色などの変化を細やかに把握し、協力医の意見を仰ぎながら対応している。終末期でも受け入れし、利用者に寄り添ったケアを心がけている。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応については、マニュアルを作成して直ぐに職員が対応出来る様にしている。また、定期的に研修会を開催して職員間で共有し急変や緊急時に備えている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回の消防訓練を通して、昼夜の避難誘導や、災害時の避難経路を災害マップで避難場所の確認を行い、職員で避難経路を実際に移動しながら話し合っている。地域の消防訓練に参加し、協力体制をお願いしている。</p>	<p>職員内でマニュアルを共有し、夜間想定を含めた避難訓練を年2回実施している。隣接する特養は福祉避難所にもなっており、水災・震災など原因に応じて連携して対応する。また、地域の防災会議にも参加して、地域との協力体制も整えられている。</p> <p>隣接する特別養護老人ホームに十分な備蓄もあり、災害時にも安心できる状況である。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者様一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない目だたずさりげない対応に心がけている。接遇の内部研修に参加し職員間で研修内容を共有し実践に勤めている。</p>	<p>利用者との言葉遣いにおいて、親しみやすさと馴れ馴れしさとの違いを理解し、場面ごとの対応のメリハリをつけることを職員全員が常に意識するよう指導を行っている。</p>	<p>法人の事情で現在は接遇委員会が開催できていない状況ではあるとのことだが、再開できることを期待する。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人が希望出来る様に声掛けを行い、職員の思いを押し付けないよう気をつけている。日々寄り添える介護に努め、選択出来る様に促して自己決定の働き掛けを行っている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>グループホームは施設ではなく家であるを基本に支援をしている。職員がその利用者様のペースに添って支援できているか考えることに勤めている。お一人お一人に合ったタイムスケジュールで一日を過ごしていただく。日中に運動やレクリエーションを楽しんでいただく。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>2か月に一度、希望のある方は毎月の訪問理美容を取り入れてる。個人的には基礎化粧品を持参されてる。入浴後にはユニットで用意した基礎化粧品を利用いただいている。個人用のブラシを入浴セットに用意しセットしていただいている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>月に手作り昼食、手作りおやつと各一日ずつ利用者様の要望を取り入れ、一緒に作るレクリエーションを実施している。</p>	<p>月に1～2回、手作りメニューの日を決め、利用者の手を借りながらみんなで調理をしている。普段にはないメニューのうえに、自分たちで作るため、利用者の食欲もいつも以上とのこと。口腔体操を実施し、利用者がいつまでも食事を美味しく取れるように支援している。</p>	<p>外食はできないが、デリバリーサービスも活用されたとのこと。今後もイベント時にでも「特別な食事」を体感できる機会が継続してあると利用者も楽しめるのではないかと。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事、水分摂取量がすぐに把握できるように水分排泄チェック表に記録している。水分量が不足している方は、飲み物の味を変えたり家族様と相談して好みの飲み物を用意したりと水分量を確保している。また、食事量が摂れない方には、食事形態の変更や家族様の聞き取りで好みの食材の用意で支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後の口腔ケアは、利用者様全員実施、自立度に合わせた介助を行っている。職員の付き添い介助が必要な方には口腔内ケアを実施している。また、週1度定期的に訪問歯科に往診して頂き、口腔内の清潔保持に努めています。また診療情報を参考に支援してる。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>水分、排泄チェック表を利用して、入居者の排泄パターンの把握に努めている。トイレでの排泄や時間誘導による声掛けを行い入居者の力に合わせた排泄を促している。また、尿意、便意のある方には、トイレでの介助を行い、自立に向けた支援を行っています。</p>	<p>自立・見守り・一部介助など、利用者が自分でできる能力を伸ばす細やかなケアを心がけている。2時間ごとに定期巡回し、利用者の排せつのタイミングに支援できる体制を取り入れている。</p>	<p>排泄の自立支援のため、下肢機能を向上させる体操も取り入れてみてはどうか。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>運動不足や水分摂取量の不足と食材に配慮してる。1日2回の体操を取り入れ、個人的に散歩を実施している。水分不足については、好む飲み物を用意して摂取量の確保に取り組んでいる。食事、おやつに繊維の多いものも個人的に用意している。利用者によって主治医に相談し整腸剤の処方、頓服の服用をしている。</p>		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>利用者様に施設の入浴を好きになって楽しんで頂くよう湯舟に入る入浴に勤めている。どのタイミングでも渋る方の方に自分なりにぬくもれてない、浴槽をまたぐのが怖いとの声を聞く。シャワーチェアでの座って浴槽に入っていたいただき、入浴剤の用意、各自のバスタイムで入浴している。</p>	<p>入浴は週2回、1日3人～4人程度。 本人の拒否があれば無理強いせず、同性介助を行ったり、翌日に振り替えたり、清拭にしたりするなどの対応を行っている。 毎日入りたいなどの要望があれば、できる限り対応している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>利用者様の生活リズムに合わせて休息をしていただいている。1日2回の体操や食事、おやつ等の時間等自身の体調に合わせて休息している。下肢に浮腫があるかたには日中の休息も配慮している。休息中や夜間時は安否確認をしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>処方一覧を個人ファイルの1ページ目に挿み常に職員が見れるようにしている。往診時の記録は往診記録と申し送りに記載している。受診はその都度申し送り記載し職員に周知し、家族様にも連絡を入れている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者様の生活歴をふまえて得意なこと趣味嗜好が違うため、一人ひとりに合った役割を提供して自身の力を発揮いただくよう、かかわりを心がけている。その際に職員が上からの目線の声かけにならないよう気をつけている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるよう支援している</p>	<p>現在熱中症対策の為遠出の散歩は出来ないが、施設裏のテラスに椅子を設置しており、季節を感じられている。天候によっては30分以上の散歩を行っている。また、洗濯物干しをしたついでに施設内の木、花の鑑賞やユニットで育てている野菜を見たり、他のユニットを訪ねて交流をしたりと気分転換を図っている。近くにコンビニがあるため買い物ついで</p>	<p>2～3人の少人数で日常的に散歩や買い物に行けるよう支援を行っている。 外気浴や受診の際の外出時など、少しでも外気に触れ、季節を感じられるように支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用様により施設管理、ユニット管理と個人管理となっている。ただ、外出時の買い物の支援をさせて頂く時には、職員が付き添い、支払いをして頂く様に支援を行っている。ユニット管理は小遣い帳を本人確認のもとつけている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>御家族から連絡があり、希望があれば電話に出て頂きお話をさせて頂いている。また、ご友人から手紙やはがきが届いた場合は、お返事を書いて頂き、返信させて頂く支援を行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間においては、午前中に朝日が入ってくる為に眩しい時があり職員がカーテンで光の調整をし、日差しが少し傾き眩しさが収まり次第、カーテンを開けて天気、外の様子、時間帯がわかるようにしている。また、フロアーにはソファがあり食事席の違う方との交流が図れるようにしている。フロア壁はレクレーションで作成した物を飾り付けて居心地良く過ごせる工夫を行っている。</p>	<p>共有スペースや廊下には、季節を感じられる装飾をし、利用者が作成した作品を掲示している。 なるべく日中は共用空間で気持ちよく過ごしていただけるように、換気や清掃にも気を配っている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファを置いているため、そこに座っていただくいつもの食事席のメンバーと離れて過ごしていただける。決まったメンバー以外との交流が出来たり、フロア内で一人にもなれる。</p>		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家具に関しては転倒防止のため施設の物を利用いただている。その他インテリア等は入居時に馴染みの物を持って来て頂き、自宅の様な雰囲気となる様に心がけている。</p>	<p>利用者の居室は、希望があれば家具などの使い慣れたものの持ち込みを可能としており、その人らしい生活が送れるよう配慮されている。</p> <p>常に気持ちよく利用者が生活できるように、換気や清掃にも気を配っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室やトイレの場所が分からない利用者様のために眼の高さで好きな花、写真の表札等で分かりやすく表示し、混乱が少なくなる様に工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができていく (参考項目: 9,10,19)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目: 9,10,19)	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働けている (参考項目: 11,12)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない